

平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでもものごとに取り組む子

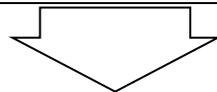
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律の重視
- ・互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う集団づくりの推進

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題（○成果▲課題）	主な要因
国語	<p>○読書量が多いことで、読む力の向上につながったと感じる。</p> <p>○音読や漢字練習に意欲的に取り組み、字も丁寧に書く児童が多い。</p> <p>▲自分の経験と関係付けながら詳しく書いたり、伝えたいことを自分の言葉でまとめて書いたりすることに課題が見られる。</p>	<p>○週1回の朝読書や音読カードの取組、3年生以上の漢字検定へのチャレンジにより、意欲が高まっている。</p> <p>▲実体験不足や語彙の不足、多様な表現をする機会が少ないことが影響していると考えられる。</p>
算数・数学	<p>○算数に関する関心・意欲は高い。課題に対して意欲的に取り組む姿が見られる。</p> <p>▲文章題の立式や自力解決に課題のある児童が見られる。</p>	<p>○習熟度別少人数指導において、担任、専科との指導の共有ができ、個々の児童に応じた指導ができています。</p> <p>▲既習事項の定着不足や課題を把握する力が不足している。</p>
社会	<p>○関心・意欲が高く、特に、体験や見学したことを新聞等にまとめることを好む。</p> <p>▲資料から何が分かるのかを表現することや複数の資料をもとに複合的に考えることに関して課題が見られる。</p>	<p>○体験、見学したことについて、まとめる活動を継続的に行ってきた。</p> <p>▲多数の情報を整理して共通点や相違点などの視点をもつこと、社会的事象の捉えが苦手である。</p>
理科	<p>○全体的に関心・意欲が高く、実験や観察に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>▲観察の結果と予想とを比較・関連付けて考えることができるかを見ることに課題が見られる。</p>	<p>○教材を工夫し、学習のめあてを明確にした指導ができています。</p> <p>▲課題を解決する手段を経験や既習事項と結び付けて考えることが苦手である。</p>
体育	<p>○体育を好む児童は多く、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○マット運動の研究授業を通して、教員の指導技術の向上ができたと同時に、児童の技能の大幅な向上が見られた。</p> <p>▲運動技能に個人差がある。</p> <p>▲課題をもち、その解決方法を考えることについて、児童によって差が見られる。</p>	<p>○児童の実態を理解し、それに合った課題を設定している。</p> <p>▲運動経験の差が運動技能の差につながっている。</p> <p>▲授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	学習規律を全児童が常に意識できるよう指導する。 実態調査アンケート「学校の約束を守っていますか」において95%以上を目指す。【昨年度91.7%】
②授業改善	授業計画、実践、振り返りを常に行い、児童の実態に合った授業ができるようにする。 週案簿の提出に併せて、授業改善の視点で振り返り、成果と課題を毎週記入する。
③教員の指導力	学習のねらいを理解し、児童がその達成に向けて意欲的に取り組めるような授業力をつける。 また、本校研究の中心でもある「関わり合い」をテーマに、各教員が年1回授業を公開し、教員相互に授業観察を行う。
④家庭との連携	手紙や連絡帳を通して家庭との連絡を密にし、学習状況を伝え、協力体制を作る。 実態調査アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。」において95%以上を目指す。 【昨年度93.5%】
⑤その他	朝学習における漢字・計算練習の積み重ねや夏季休業中の補習学習により、基礎学力を高めるようにする。 東京ベーシックドリル診断テスト（算数）において達成率85%、漢字検定において合格率90%以上を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

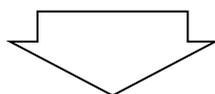
①学力基盤	
取組Ⅰ	授業開始と終了が意識できるようにチャイム着席、あいさつの指導を徹底する。
取組Ⅱ	「入学のしおり」「よい子のやくそく」で示している、学校で統一した持ち物の確認を行い、学習に関係ないものは持ってこないことを徹底する。
取組Ⅲ	話し方、聞き方についての指導を行うとともに、友だちを受容する態度を身に付けるような学級づくりを行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や教科書、指導書、過去の実践例を参考に、児童の実態に合った授業計画作成や教材研究を行い、児童が意欲的に取り組める授業にする。
取組Ⅱ	常に授業に対する振り返りを行い、授業改善を行う。そして、魅力ある授業や達成感・充実感のある授業をする。
取組Ⅲ	児童が自ら進んで学習に取り組み、深い学びとなるよう、目的に沿った話し合い活動を設定し、授業をする。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	教科の目標、毎時間のめあてを理解し、それを目指した授業を行い、児童が学習に意欲的に参加して達成感・充実感をもたせるようにする。また自らの授業を振り返り、授業力を高めていく。
取組Ⅱ	教師同士がお互いの授業を参観したり、指導方法の共有をしたりすることで、自己研鑽を行い、授業力を高めていく。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	低学年において、家庭での学習習慣を身に付けるため、毎日宿題を出す。また、その家庭学習を行えているかを家庭でも確認してもらい、協力を得る。 中・高学年においては、学習の定着状況に応じた宿題を毎日出す。必要に応じて、家庭でも確認をもらう。
取組Ⅱ	学年便りや連絡帳を通して家庭との連絡を密にし、授業準備に必要な物を周知し、忘れ物を少なくし、授業の充実を図れるよう協力を願う。
取組Ⅲ	ホームページを通して、本校の教育活動をさらに理解していただけるよう、随時更新をする。

⑤その他	
取組Ⅰ	朝学習において全校読書を行ったり、国語や算数の復習を中心とした時間を設けたりして、基礎・基本の徹底を図る。
取組Ⅱ	漢字検定（3年生以上の希望者）に取り組み、語彙を豊かにし、さらなる言語能力向上を目指す。
取組Ⅲ	夏季水泳指導期間中の3日程度、補習を行う「サマースクール」を設定する。担任は少人数指導における1学期の補充学習を行う。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<p>チャイム着席や授業開始、終了あいさつの指導、授業規律を徹底することで、学習環境を整えることができた。</p> <p>保護者アンケートの「学校は基礎学力が身に付くように教えている」の項目では、肯定的評価が95.7%であった。</p>	<p>「学校の約束を守っていますか」において昨年度同様91.8%であった【昨年度91.7%】。全児童が学校の約束を常に意識できるように指導するとともに、保護者にも年度初めの保護者会で学校のきまりについて説明し、協力を願う。</p> <p>引き続き話し方、聞き方についての指導を行うとともに、各教科において主体的・対話的で深い学びの授業について研究を続ける。</p>
②授業改善	<p>授業計画、実践、振り返りを常に行い、児童の実態に合った授業を行った結果、児童アンケートの「授業の内容がよく分かる」という項目で、肯定的評価が96.8%であった。</p>	<p>児童が自ら進んで学習に取り組み、深い学びとなるよう、学年で指導方法の共有を積極的に行うようにする。</p>
③教員の指導力	<p>教科の目標、毎時間のめあてを理解し、それを目指した授業を行い、児童が学習に意欲的に参加して達成感・充実感をもたせるよう工夫した。その結果、「学校は学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」という項目で肯定的評価が92.4%であった。</p>	<p>教師同士がお互いの授業を参観したり、指導方法の共有をしたりする機会を計画的に設定していく。</p>
④家庭との連携	<p>実態調査アンケート「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。」において92%であった。</p> <p>家庭との連携を密に取れる体制ができていていると考える。</p>	<p>実態調査アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。」において91%であった【昨年度93.5%】。学校便り、学年便りを25日頃には配布をしてほしいという要望が強く、改善を心がける。</p>
⑤その他	<p>東京ベーシックドリル診断テスト（第2回、算数）において全学年で達成率80%以上となった。85%を超えている学年もあり、基礎学力の定着がなされている。</p>	<p>漢字検定において合格率87.9%と、目標値を達成できなかった（受検者数165名）。受検者数も昨年度より少なかった。取組の強化を検討する。</p> <p>「サマースクール」だけでは、学力の定着を十分に補うことはできない。休み時間や放課後に時間を少しでも確保し、日頃から補習を行うようにする。</p>